



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和3年6月19日(土)
春の合同剪定会に参加しました 編

能代バイパス黒松友の会*では春と秋の年2回、剪定講習会と剪定会を開いておられます。国道7号沿いに植栽された黒松151本は、各会員が里親としてそれぞれの松の剪定を行っています。のしろ白神ネットワーク(以下、NW)では、はま寿司さん前の1本を担当させていただいています。と言っても、剪定会に参加したのは数えるほど。いつも事務局とお隣の松のオーナー、佐藤さんをお願いしておりましたが、今回は今年4月に研究所に着任された安藤大将先生**をお誘いし、参加しました。

幸いにも天気予報通りとはならず、外作業日和のうす曇りの中、久しぶりに屋外で一日体を動かしました。数日前に資料を読み返し、随分前に会員の方々に教えていただいた剪定のポイントを思い出しながらはさみを握りましたが、テスト直前のドロ縄勉強が成果を生まないのと同様の結果に…。これから秋までの黒松の成長を願うばかりです。

剪定会後の枝葉は、15袋程度を研究所でいただいています。10年ほど前、木材を伐採後、林地で捨てられるものを有効活用しようと精油抽出装置を製作、企業との共同研究により製品開発を行いました。その装置の稼働確認を行っています。秋田自動車道・太平山パーキングエリアの香りのベースとなっているスギ精油は、その時の研究成果のひとつです。

丁寧なご指導を下された安倍会長やお隣の佐藤さん、ご準備・サポート下さいました事務局の皆さま、有難うございました。次回、頑張ります！

文：渡辺 千明

*能代バイパス黒松友の会紹介ページ：

https://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/douro/noshirokokuudou_douro/vsp/kuromatu/main.html

**6月21日付け北羽新報「木高研の窓」にコラム掲載



手の届かないところは安藤先生にお願いしました。お隣の佐藤さん(奥)は私たちの3倍速で上から手際よく、軽快な手さばきで剪定されていました。



剪定会の10日後、渋谷先生(左)と安藤先生(右)が剪定枝葉を麻袋4袋にギューギューに詰め込みます(上)。原理は蒸留酒の作り方と同じです。釜に装着、約1時間半かけて抽出します(下)。今回は土嚢袋9袋、約22kgを使用しました。



釜が冷めるまで1晩。約20mlの黒松オイルが抽出されました。渋谷先生によると、成長期にあたる春の剪定枝葉の方が秋よりも量が多いとのこと。今後の活用を考えていきたいと思っています。